

稲作農家 各位

山武稲作情報 第3報

(2024年6月19日発行)



山武農業事務所 改良普及課
TEL:0475-54-0226
FAX:0475-52-7914

山武地域の生育状況

6月上旬以降の比較的安定した気候により山武地域の水稻は茎数がやや多く、草丈は低めに推移しています。また、6月中旬に入ってからの気温が高かった影響により、生育が早まり、予想よりやや早めに幼穂形成期を迎えています。幼穂形成期が早まると穂肥の適期も早まるため、幼穂の状態をよく確認し、穂肥のタイミングを調整しましょう。

また、中干しの時期に入り、気温が高まると紋枯病の発生が懸念されます。ほ場をよく観察し、紋枯病の病徴が見られたら速やかに治療効果のある薬剤による防除を実施しましょう。また、補植用の苗はいもち病の発生源となるため、速やかに処分しましょう。

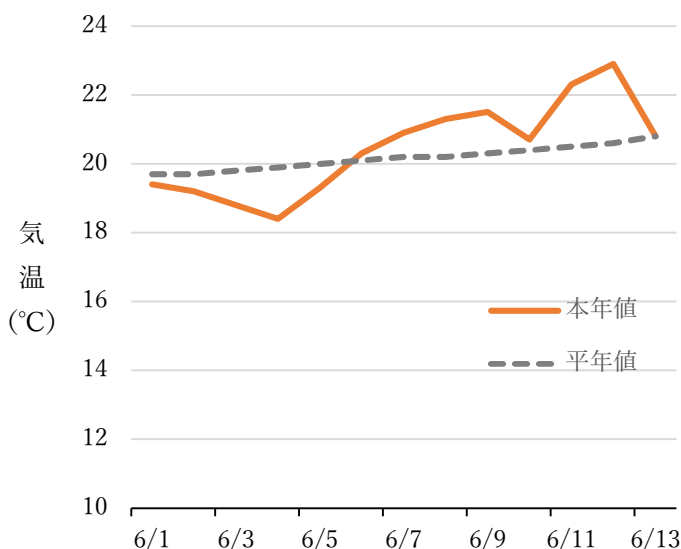


図1 日平均気温の推移(アメダス、横芝光)

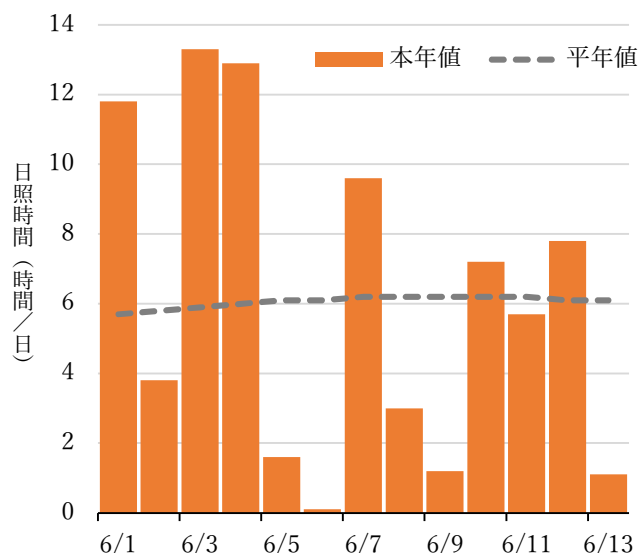


図2 日照時間の推移(アメダス、横芝光)

幼穂形成期予測(6月14日現在)*

移植日	品種			
	ふさおとめ	ふさこがね	コシヒカリ	粒すけ
4/20	6/12	6/13	6/21	6/20
5/1	6/19	6/21	6/28	6/28
5/15	6/27	6/28	7/6	7/7

冷害危険期予測(6月14日現在)*

移植日	品種		
	ふさこがね	コシヒカリ	粒すけ
4/20	7/8~7/22	7/16~7/30	7/15~7/29
5/1	7/16~7/30	7/23~8/6	7/23~8/6
5/15	7/23~8/6	7/31~8/14	8/1~8/15

*幼穂形成期とは幼穂の長さが1~2mm になる時期のことをいいます。

*予測日は水稻生育予測システム「でるた TM」により、アメダス横芝光のデータを用いて予測しています。移植時の苗の条件、ほ場の条件、予測を行った日以降の気象条件により誤差が出る場合があります。

生育調査結果(6月14日時点)

*本年値の()内は平年比(過去10年)を示しています。

*葉色は、カラースケール(CS)による数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

コシヒカリ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
東金市 4/28 移植	本年	46.8 (87%)	554 (120%)	9.7 (96%)	4.4(90%)
	前年	51.4	450	9.3	5.1

ふさこがね

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 5/3移植	本年	44.1 (92%)	493 (94%)	9.1 (94%)	4.7(89%)
	前年	45.9	304	8.8	5.3

ふさおとめ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 4/30移植	本年	39.1 (88%)	601 (123%)	10.4 (99%)	4.6(91%)
	前年	45.9	304	8.8	5.3

アキヒカリ

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 4/25移植	本年	51.3 (96%)	567 (101%)	10.1 (100%)	4.4(83%)
	前年	55.9	498	10.1	5.6

夢あおば

場所・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
山武市 5/18移植	本年	37.0 (88%)	420 (165%)	5.8 (95%)	—
	前年	37.7	121	5.9	—

千葉県農林総合研究センター 水稻・畑地園芸研究所 成東育成地による生育調査結果(6月14日時点)

*調査は全て山武市で行われています。

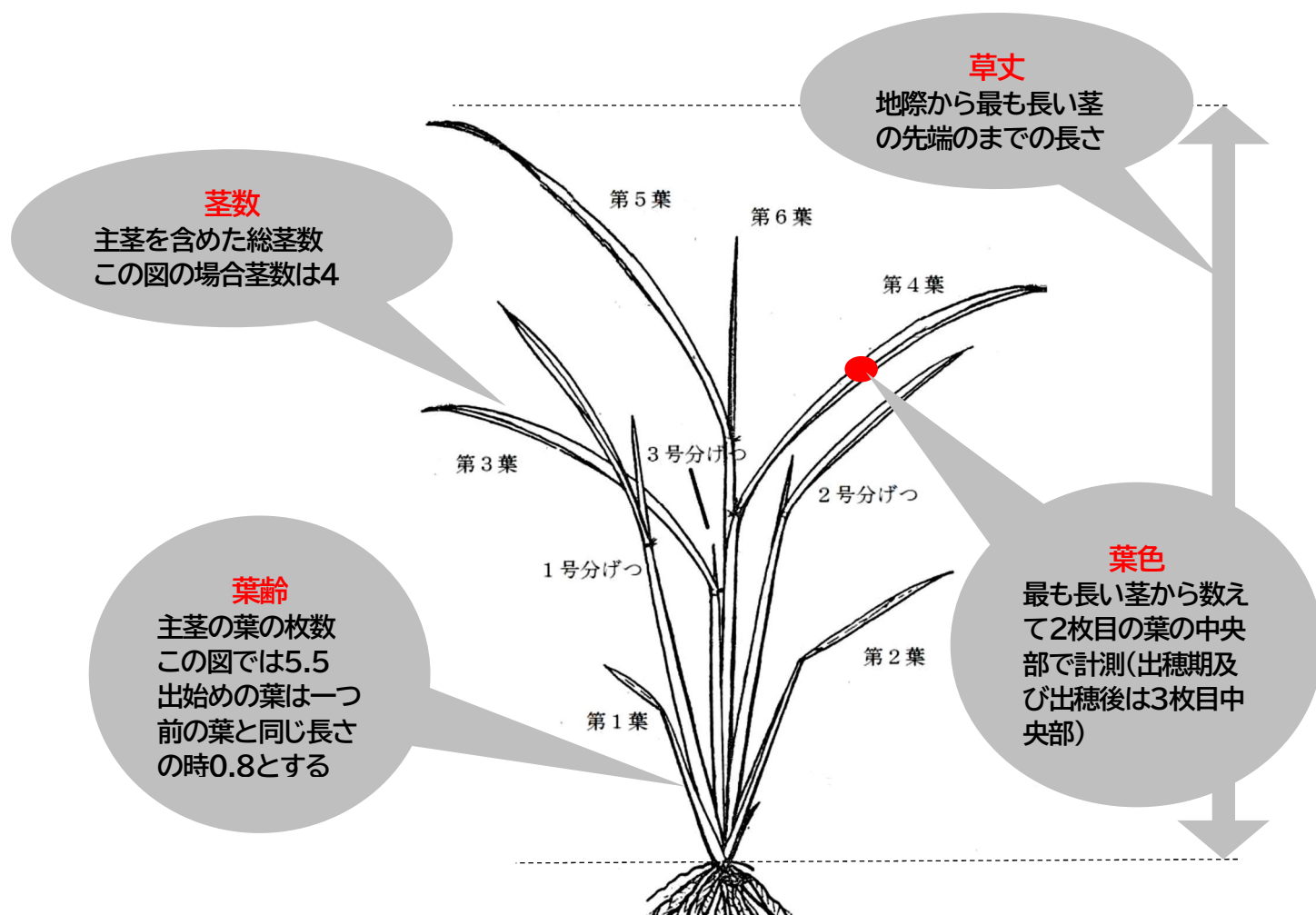
*本年値の()内は平年値(過去10年)との差を示しています。

*葉色は、カラースケール(CS)による数値を表しています。(調査は葉色計(SPAD)を用いています。)

品種・移植日	年次	草丈(cm)	茎数(本/m ²)	葉齢	葉色(CS*値)
コシヒカリ 4/25移植	本年	51.9 (101%)	495.8 (90%)	9.8 (101%)	4.8(103%)
	前年	53.7	603	9.8	4.84
ふさこがね 4/25移植	本年	48.9(97%)	522.2(89%)	9.9(98%)	5.1(101%)
	前年	50.9	607	10.2	6.0
ふさおとめ 4/25移植	本年	50.0(103%)	511.5(103%)	10.6(102%)	4.9(105%)
	前年	49.5	377	10.6	5.0
粒すけ 4/25移植	本年	48.8(100%)	527.5(100%)	10.2(98%)	5.1(103%)
	前年	49.5	400	10.5	5.7
粒すけ 5/15移植	本年	35.6(94%)	396.0(120%)	9.1(98%)	5.5(99%)
	前年	37.9	290	9.3	6.1

・データの見方(調査基準について)

以下の図を参考に、稲を観察し、調査地点の数値と比較してみましょう。



山武管内でよく見られる難防除雑草の対策

○難防除雑草とは

雑草のうち、防除が困難なものを差します。一度水田に侵入すると防除に大きな労力が必要となり、また、単年で根絶することは難しいため、長い期間をかけて対処する必要があります。山武地域でよく見られる難防除雑草には以下のようなものがあります。

●オモダカ（多年生広葉雑草、草丈:30～60cm、主な繁殖器官:塊茎）

代かき後 30 日前後に発生盛期を迎え、8 月上旬まで発生します。秋に根茎を伸ばし、多数の塊茎をつけ、翌年の発生源となります。発生期間が長いため、初中期一発剤のみでは防除しきれないことが多く、初期剤や初中期剤、中後期剤を組み合わせた2～3回の体系防除が必要になります。また、塊茎形成量を減らすために稲刈り後の早期耕うんまたは除草剤による防除を実施しましょう。

■使用除草剤の例

	田植同時	移植後 ※1	移植 30 日後	中干し時
体系①		● 初中期剤 ボデーガードプロ1 キロ粒剤 バッチリLX1 キロ粒剤		■ 中後期剤(茎葉処理) バサグラン液剤 ワイドアタック SC
体系②	○ 初期剤 ユニハーブフロアブル		▲ 中後期剤 レプラス1 キロ粒剤 アトトリ1 キロ粒剤	
体系③	● 初中期剤 サラブレッド KAI フロアブル			■ 中後期剤(茎葉処理) バサグラン液剤 ワイドアタック SC

※1 根が活着してから使用(移植7～10日以降)。雑草が多い場合は代かき時に初期剤を使用。

■クサネム（一年生雑草、草丈:50～100cm、主な繁殖器官:種子）

5月頃から発生し始め、水面から露出しやすい部分を中心に発生します。大型の雑草で茎が太く固いため、収穫作業の障害となりやすい雑草です。また、種子の大きさが玄米と似ているため、収穫物に混入すると等級の低下につながります。発生期間が長いため、初中期一発剤のみでは防除しきれないことが多く初中期剤、中後期剤を組み合わせた体系防除が必要になります。また、発生抑制のために代かきを丁寧にして水田の高低差をなくして田面の露出部分を減らしましょう。

■使用除草剤の例

	田植同時	移植後 ※1	移植 30 日後	中干し時
体系①		● 初中期剤 ボデーガードプロ1 キロ粒剤 ウィードコア1キロ粒剤		■ 中後期剤(茎葉処理) ワイドアタック SC ロイヤント乳剤
体系②	● 初中期剤 バッチリLX1 キロ粒剤			■ 中後期剤(茎葉処理) ワイドアタック SC ロイヤント乳剤

※1 根が活着してから使用(移植7～10日以降)。雑草が多い場合は代かき時に初期剤を使用。

農薬を使用する際は、使用前に必ずラベルを良くお読みいただき、表示のとおりにお使いください。

コラム① 直播栽培による田植えの省力化

近年、栽培面積の拡大による育苗スペースの不足や育苗にかけられる労力の不足により育苗の省力化を検討する方が増えています。今回は、育苗の省力化に役立てられる水稻の直播栽培技術について紹介します。

直播栽培技術は通常の田植えを行う移植栽培とは異なり、田んぼに直接播種する“じかまき栽培”のことで、播種時点での水田の状態により湛水直播と乾田直播に分けられます。

○湛水直播

代かきし、水を張った状態の田んぼに播種します。播種方法は播種機やドローン等様々で、比較的設備投資が少なく済むため、中規模の経営体に取り組む事例が多い播種方法です。代かきを行う労力が必要となり、播種方法によっては代かきから播種まであまり時間をあけられないためスケジュール管理が重要となります。また、ほ場によっては鳥害やジャンボタニシによる食害の対策が必要です。

○乾田直播

代かきをせず、乾いた状態の田んぼに播種機を使って播種します。高速に播種が可能であるため大規模に水稻栽培を行う場合に導入する事例が多い播種方法です。省力化効果が高い一方で、播種時期の降雨やほ場の乾きやすさが苗立率に与える影響が大きいため、ほ場の選定やほ場整備が重要になってきます。

いずれの方法も、苗立率の確保と雑草の防除が多収のカギとなります。そのどちらも、水田の均平がとれているかが非常に重要となりますので、実際に取り組む際は水田の均平をしっかりとるように心がけましょう。

コラム② 枯れ残る雑草は除草剤抵抗性を持っているかもしれない

現在、北関東でグリホサート(ラウンドアップマックスロード等)に対する抵抗性を持つオヒシバの発生が報告されています。オヒシバは水田畦畔によく見られる一年生イネ科雑草で、斑点米カメムシの生息の場になるため、水稻出穂期前の防除が必須です。もし除草剤による防除を予定している畦畔に生えているオヒシバにグリホサート抵抗性が疑われる場合、グリホサート以外の系統(ザクザ液剤等)の除草剤を使用しましょう。

また、オヒシバによく似た雑草に、同じイネ科雑草のメヒシバがありますが、メヒシバは現在、国内ではグリホサート抵抗性の発生は確認されていません。



(写真)メヒシバ(左)とオヒシバ(右)

よく似た雑草ですが穂の形に違いがあります。オヒシバの穂は太くまっすぐに生えますが、メヒシバの穂は細くしなやかです。

次回の情報は6月28日(金)に発行する予定です。